

事業報告

平成29年度 教育事業

ジャンプアップキャンプ②

平成29年10月21日(土)～22日(日)

【対象】小学校3・4年生

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣 旨～

小学校中学年の子供たちが、様々な自然体験活動を通して、自主性・協調性を伸張する機会となる体験プログラムを実施する。また、企画運営はボランティアが中心となっており、子供達の成長を支援する。

～主催・後援団体～

主 催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

後 援：伊那市教育委員会

～活動日程～

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
1 日 目	10:30～ 受付 11:30～ 開会式					開 会 式	昼 食	活 動 準 備	「目指せ！フレンド マスター」 ～アドベンチャー ハイク&宝探し～			タ バ の つ ど い	タ の 食	「ハート マスター」 ～聴覚を活か したキャンドル ファイヤー～	入 浴	就 寝
2 日 目	起 床	朝 の つ ど い	朝 食	清 掃	「クッキングマスター」 ～みんなで野外炊事～ ・ピザ、ポトフ、 フルーツポンチ作り			振 り 返 り	開 会 式	14:30～ 閉会式 15:00 解 散						

～参加者～

小学3・4年生 計40名（長野県：35名、山梨県：4名、愛知県：1名）

～活動トピックス～

活動Ⅰ 「目指せ！フレンドマスター」

雨天プログラムとなったものの、自然の家5室を使い、様々なミッションをクリアしたり、身体表現ゲームに取り組んだりしながら存分に身体を動かした。企画委員の学生達がミッションマスターになりきり、子供達とにこやかに関わり合いながら各ゲームを進行した。子供達は皆「フレンドマスター」の称号獲得を目指し、班で協力し合いながら活き活きと屋内を巡った。



活動Ⅱ 「ハートマスター～聴覚を活かしたキャンドルファイヤー～」

プレイホールに集まり、聴覚を活かしたキャンドルファイヤーに取り組んだ。子供達は耳を澄まして自然の音を聞き分けるゲームや、学生企画委員が進行するファイヤーレクに取り組む、存分に身体を動かした。

静寂の中で感覚を研ぎ澄ましながらゲームに臨んだ子供達は、初めて行う遊びに目を輝かせていた。活動の最後には、班毎に分かれて小さな火を囲み、一日の振り返りを行った。



活動Ⅲ 野外炊事「クッキングマスター～ピザ・ポトフ・フルーツポンチ作り～」



野外炊飯棟で「ピザ・ポトフ・フルーツポンチ」を作った。子供達は野菜を切ったり、生地をこねたり、缶切りを使ったり、火起こしの補助をしたりしながら一生懸命活動に取り組んだ。

～参加者の声～

《参加児童》

- ・寝るとき、班が一緒のグループでたくさんおしゃべりして本当に面白かった。知らない子とたくさん友だちになれて嬉しかった。
- ・みんなで協力して意見を出し合うことが大切だと思った。クッキングマスターで作ったピザやフルーツポンチがめちゃくちゃ美味しかった。
- ・ボランティアのお兄さん・お姉さんが本当に優しく、とっても話しやすく嬉しかった。なかなか眠れないとき、お部屋に入ってきてくれたのですぐ眠れた。
- ・フレンドマスターで、難しいゲームがあって大変だったけど、色々協力して楽しくできて良かった。
- ・フレンドマスター、ハートマスター、クッキングマスター、全部すごく楽しかった。また絶対ジャンプアップキャンプに行きたい。

～成果と課題～

- 当事業も徐々に知名度が上がり、過年度のタイニーキャンプ参加者やジャンプアップキャンプのリピーターを中心に参加を熱望する方が増えてきた。今後できるだけ大勢の子供達に参加してもらえるよう、実施回数を維持したり、企画内容に関してボラの指導を丁寧に行ったりしながら、事業の充実を図っていききたい。
- 法人ボランティア自主企画の内容が大変充実しており、職員も大変新鮮な気持ちで事業に臨むことができた。今後も法人ボランティアの高いモチベーションを維持しながら、企画に携わりたいと願う人材の育成を図っていききたい。
- 自炊棟にタープを設置し、7班全員が雨をしのぎながら野外炊事に臨めるよう工夫したが、後半は雨が強くなり、タープ内の班は少々苦労していた。雨天の場合にはより大きなテントを設置し、円滑に活動を進めることができるよう配慮していききたい。